



気管吸引手順及び気道管理の適正化による感染制御活動の考察

医療法人財団利定会 大久野病院看護部 3階医療療養病棟

【はじめに】

入院施設基準の変遷の中で、当院、療養病床における気管切開患者や人工呼吸器患者の入院件数が増加し、気管吸引手順や気道管理の適正化が課題となった。気管吸引操作や気道管理は口腔ケアの実施状況と並んで、肺炎や気管支炎の発症に大きな影響を及ぼすが、不可視状況で行うために手順は曖昧になりやすい。そこで我々は、感染制御を重視した気管吸引及び気道管理の手順を整備した。また、短期間ではあるが感染制御の効果について検証を行ったので報告する。

【方法】

- 1) 気管吸引マニュアル及びカフ圧管理の検討
- 2) 看護職員全員に気管吸引と気道管理のレクチャーを実施
- 3) 気管吸引（カフ管理を含む）院内認定試験（筆記試験、実技試験）の実施
- 4) 1) 2) 3) 実施前後で手指消毒薬の使用状況と患者の感染兆候を比較

【結果】

- 1) 手指消毒と吸引のタイミング、吸引の圧・時間・操作・挿入深度、吸引チューブと吸引水の管理、カフ圧管理などについて詳細を取り決め、気管吸引マニュアルとして文書化した。
- 2) 院内認定試験で看護師全員が適正な気管吸引手順を習得したことを確認した。
- 3) 気管吸引、気道管理に関する感染制御活動の効果について確認した。

【考察・まとめ】

気管吸引のように侵襲の高い医療技術の提供を、適正かつ安全に行うためには、手順の細部が曖昧にならないように検討し、手順をマニュアルとして文書化すること、また、文書化だけに留まらず、施行者全員で手順の周知徹底を行い、順守できる体制を整えることが重要であると考えます。

まだ、感染制御の効果についてデータ集積が不十分であるため、今後も継続してデータを集積し検証を行ってゆきたい。